

のっぽの手

認定 NPO 法人 ふくしま NPO ネットワークセンター通信 vol.56

2015. ③月号

「市民活動フェスティバル」始動

昨年(2014)の2月に大雪に見舞われた「ふくしま市民活動フェスティバル」。今年(2015)は一つでも多くの団体、そしてたくさんの市民参加を実現するために、次期開催は季節を選ぶことからスタートしました。皆様の参加・参画をお待ちしています。

◆Contents

- 「東北地区NPO支援会議」参加報告
- オープンセミナー「パブリックスピーキング入門」開催
- 未来まちづくり基金助成金「福島踊屋台伝承会」より
- 市民活動助成金の助成対象5団体より
- 「金融機関との懇談会」参加報告
- 市民活動フェスティバル進捗状況



熱心に耳を傾ける全国から集まった団体の関係者たち

「組織基盤強化フォーラム」に参加して

1月22日(木)にパナソニックセンター東京において、パナソニック株式会社・特定非営利法人日本NPOセンター主催の「組織基盤強化フォーラム」が開催され、出席をいたしました。パナソニックは2001年にNPO/NGOの組織基盤強化を応援するプログラムを立ち上げ、以来、助成プログラム、プロボノプログラム、講座など

の支援事業を継続的に展開してきています。

「組織基盤強化ワークショップ」は全国約7箇所(※)で毎年開催されており、2015年度はふくしまNPOネットワークセンター主催で開催する予定です。市民活動が持続的に発展していくため、是非、この課題と一緒に取り組んでいきたいと考えています。

ふくしまNPOネットワークセンター

理事 内山 愛美

東北地区NPO支援センター会議に出席して

本会議の始まりは、東北労金が6県を対象にNPO ボランティア受入事業の説明会を行ったことが契機になっている。せっかく東北地区のNPO 支援センターが一堂に会するので、説明会の中で時間を割いていただき、支援センターの情報交換を行わせていただいたことが発端になっている。その後、事業が廃止されたことに伴い、6県持ち回りで自主的に開催することになった。宮城、青森、秋田の開催を経て、今回は山形開催となった。主催団体は、認定NPO 法人山形創造NPO 支援ネットワークである。

山形創造NPO 支援ネットワークは、本会議を当該法人の設立15周年記念と抱き合わせで開催した。「日本のNPO、これまでの15年これからの15年」となる記念講演が、日本NPO センター常務理事田尻佳史氏によって行われ、「地域の未来づくりとNPO の役割」なる基調講演が、一般財団法人地域活性化センター理事長の椎川忍氏によって行われた。

引き続き、東北地区NPO 支援センター会議が当日夕方と翌日午前中にわたって開催された。まず初めに、各団体から活動紹介が行われ、その後議論に入った。第一の議題は「共助社会づくり懇談会」。内閣府の懇談会のメンバーである「杜の伝言板ゆるる」の大久保朝江さんから、内閣府での議論の状況などについて説明があった。内閣府の懇談会

では、人材面、資金面及び信頼性の三つのワーキング・グループに分かれて議論していることが紹介され、意見が交わされた。地方の共助社会づくりシンポジウムについては、昨年11月に福島で開催された概要について紹介し、意見交換がなされた。また、本年1月に宮城開催が予定されている内容について、大久保さんから説明があった。

フリーディスカッションにおいて、当センターから、介護保険改正に対する中間支援組織の取り組み状況について、話題提起を行った。介護の現場を抱えていない中間支援センターとしては、地域の生活支援の包括的な取り組みはまだ現実的な課題として俎上に上っていないようであるが、介護福祉系の中間支援組織が活動し始めた山形県の取り組みが紹介され、関心をそそられた。中間支援センターの専門分化が進んでいくかもしれない。

ふくしまNPO ネットワークセンター

理事長 星野 珙二

東北地区NPO支援センター会議 構成団体

あおもりNPOセンター／あきたパートナーシップ／いわてNPOフォーラム21／せんだい・みやぎNPOセンター／杜の伝言板ゆるる／山形の公益活動を応援する会・アミル／山形創造NPO支援ネットワーク／うつくしまNPOネットワーク／ふくしまNPOネットワークセンター

2014年度ふくしまNPOネットワークセンター職員研修会が終了

◆職員研修スケジュール（全7回）◆

- 5月14日「NPO 基礎講座Ⅰ」／講師 齋藤 健
- 6月12日「NPO 基礎講座Ⅱ」／講師 牧田 実
- 8月21日「NPO と連携の協働」／講師 牧田 実
- 9月17日「ネットワークセンターのあゆみと社会貢献」／講師 星野珙二
- 10月 9日「伝え方のコツ」／講師 内山愛美
- 11月13日「ふくしまの復興とNPO」／講師 清水修二
- 12月15日「私とNPO（体験談）」／講師 星野珙二・牧田 実・齋藤美佐



最終回では皆勤賞の贈呈も行われた



改めてNPOについて学ぶいい機会になった

「職員研修に参加して」

NPO 職員で働いて2年、NPO について学びたいと思っていたところ、職員研修の機会があり参加させていただきました。

この職員研修では、NPO の基礎に始まり、協働のまちづくりの意味・役割を知ることができたうえで、ふくしまNPO ネットワークセンターの設立の経緯、福島の復興とNPO について研修できました。まだまだ復興過程の福島で、NPO の重要性をより感じるものとなりました。

また、伝え方のコツでは、コツを知ることによって簡潔に想いを伝えられ、こんなにも具体的にわかりやすくなると学ぶことができました。いただいた資料や冊子も今後活かしていきたいです。

今回の研修であらためて、ふくしまNPO ネットワークセンターは専門性の高い方々と共にまちづくりや福島の復興支援など目的をもって働けるすばらしいところだと知りました。

ふくしま情報ステーション職員 野地理恵子

オープンセミナー『パブリックスピーキング入門』

1月30日(金) A・O・Z (アオウゼ) において、オープンセミナー(講演会)を開催しました。講師はスピーチライターで、株式会社コムニス代表取締役の蔭山洋介氏。政治家、企業やNPO等の代表など、スピーチを行う人物の影の演出家として最近注目されてきたスピーチライターです。現在、日本テレビで「学校のカイダン」というドラマが放送されていますが、このドラマはスピーチライターの存在が学校の改善に一役買うというものです。蔭山氏はこのドラマのスピーチライター監修を務めています。

セミナーでは、200人が利用することの出来る会場を目にし、蔭山氏は早速、参加者が集中して学べるための会場づくりをはじめ、会場の演出づくりがどう活きるかを実践で見せました。

パブリックスピーキングとは「人を動かすためのコミュニケーション術」のことで、蔭山氏がこの言葉の生みの親です。「どんなに説明してもわかってこない」「どんなに思いを込めても伝わらない」そんな経験は多くの人があるのではないのでしょうか。共感をしてもらうための心理作戦と

しての話し方、会場や服装などの雰囲気作り、演出などを講義し、インタビューの後、他己紹介をする実践を通して発声や表現を学びました。会場は約50名が楽しげに参加していました。

今後、NPO活動をする上でパブリックスピーキングのコツが活きる日があるに違いないと感じました。

福島市市民活動サポートセンター

チーフ 内山 愛美



集まった約50名の参加者を前に実践して見せた

未来まちづくり基金助成金 助成対象団体より中間報告

特定非営利活動法人 福島踊屋台伝承会

文：上田 浩

当法人は、中心市街地で消えゆく運命にあった唯一現存する大型踊屋台の修繕・保存・活用を目的とし、元気な福島市づくり及び伝統文化の継承、中心市街地活性化を図るべく立ち上げたNPO法人です。

昨年は屋台文化についての講演会や踊屋台の一般公開を開催し、11月24日には修繕を完了した踊屋台を22の小学校から約100名の児童の皆さんに地域の垣根を越え、心をひとつに引いていただき、勇壮に中心市街地を練り歩く『踊屋台記念巡行』を行いました。途中の福島稲荷神社では、宮司より御祓を受けた後、『伝統文化みらい協会』の子どもたちによる奉納の舞を披露。沿道や境内に詰めかけた多くの観客を魅了し当日の様子は新聞・テレビ等各マスコミに『福島復興のシンボル』と大きく採り上げていただきました。

今後はこの踊屋台の保管庫となる『踊屋台伝承館』の建設に向け、さらなる皆様からのご協賛を募りながら『福島復興のシンボル』として、屋台文化の継承と共に、子どもたちの元気と観光やイベントでのPRなどに役立てていきたいと考えております。



福島稲荷神社での奉納の舞披露のようす

「ふくしま元気市民活動助成金」と 「ふくぎんみんなのサポート市民活動助成金」の助成団体の概要

12月の選考会で決定した助成対象の合計5団体よりコメントをいただきましたので、ご紹介いたします。

「虹色クリーンリレー」

公益社団法人だて青年会議所 阿部 真吾

（公社）だて青年会議所では、旧伊達七町（伊達・保原・梁川・霊山・月館・桑折・国見）を活動エリアとし、創始の心「だてはひとつ」を継承しながら、明るい豊かな社会の実現を目指して日々活動しております。この度、当青年会議所では、旧伊達七町を舞台にそれぞれに個性のある各町を7色の虹と捉え、誰でも気軽に参加できる美化活動を通して、それぞれの町を七ヶ月にわたってリレーしながら、町と町・人と人を繋ぐ市民参加型の協働事業『虹色クリーンリレー』を継続的に実施します。

「ふくしま旧家の歴史に係る記録・編集事業」

ふくしまの旧家を活かす会

会長 島貫 倫（瀬上嶋貫本家）

当会は、県北地区に遺る旧家、古民家を何とか後世に引き継ごうと、その所有者と支援する方々28名により昨年設立した団体です。これまで、維持保全に関する勉強会、先進地視察、一般公開などを行ってきましたが、現在、もっと多くの方々に活動を知ってもらうため、各々に伝わる祖先や民家に関する歴史を記録・編集する事業に取り組んでいます。

東日本大震災では、多くの魅力ある歴史的建築物が失われてしまいました。「古い建物のないまちは、思い出のない人生と同じだ」とは東山魁夷の言葉だそうです。私達は、旧家、古民家を後世に遺すことで、情緒ある魅力的なまちづくりに貢献できればと考えています。

「花いっぱい運動」

三島町宮下地区 三島町宮下区長 近藤 勇彦

宮下地区は、住民協定「まちづくり作法」を締結し「まちなみ景観を活かしたおもてなし」を地域づくりの目標に取り組んでいます。

現在取り組んでいる「花いっぱい運動」や「子育てのネットワーク」も「まちづくり作法」の取り組みの一つです。

今回は、県で伐採した支障木を活用し、「子育てのネットワーク」の取り組みの一つとして地元の小学校の児童と地区が共同でプランターを組立・製作することといたしました。

「福島市内の児童養護施設、保育園、幼稚園などに対する専門家派遣事業と海外交流事業」

こどもの笑顔 The BIG K.I.S.S. プロジェクト

代表 林 由美子

2009年8月、海外在住の日本人の国際結婚家庭を支援する団体として設立しました。震災前から、海外の国際結婚家庭や日本人学校などを訪問し、教育支援や交流活動を行ってきました。震災後はこれまで交流してきたオーストラリア、ドイツ、アメリカ、フィリピンなどの個人や団体などからのチャリティを受け入れ、福島県内の子どもたちに直接、支援をお届けしています。オーストラリアの子どもたちのコアラの折り紙を福島の幼稚園や小学校に届ける「コアラプロジェクト」はその一例です。活動では福島其自然や文化、歴史などの紹介も行い、お互いの顔の見える支援を続けています。

「シニア向けタブレット体験講習会開催事業」

特定非営利活動法人ウェブストーリー

理事長 今井 淑子

郡山市内在住の県内避難者と地域住民（60歳以上で、タブレット未経験の方）を対象とした受講料無料のタブレット講習会を3月に4回実施します。

自治体が配布しているタブレット型端末をお年寄りが使いこなせないケースが出ています。タブレット講習というきっかけをつくり、自然な形で地域と交流できる居場所づくりをすることが必要だと考えています。

1月23日には、福島銀行本店において今年度の「ふくぎんみんなのサポート市民活動助成金」贈呈式が開催されました。贈呈式には助成団体の代表のほか、当法人の星野理事長と菅野真理事も出席しました。また、贈呈式に併せて、前年度の助成団体より活動報告も行われました。



団体の代表を囲んで、
福島銀行取締役社長森川英治氏と星野理事長（左）

県内金融機関との懇談会 ～NPOとの連携を探る～

ふくしまNPOネットワークセンター

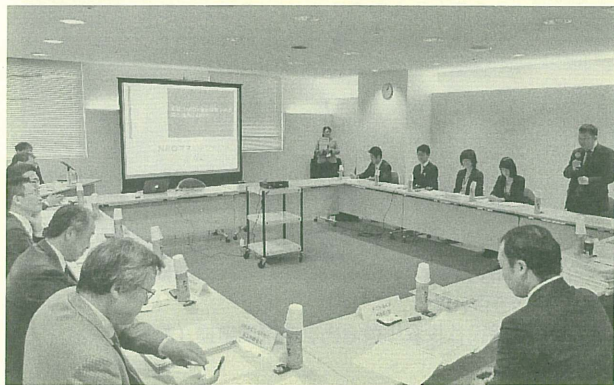
理事長 星野 珙二

内閣府が主宰する「共助社会づくり懇談会」は三つのワーキング・グループから構成されています。一つは、人材面の課題に関するワーキング・グループ、二つ目は資金面の課題に関するワーキング・グループ、三つ目は信頼性の向上に関するワーキング・グループであります。今回企画された「県内金融機関との懇談会」は、二つ目の資金面の課題に関連づけて開かれたものです。今まで、地域レベルでのNPOと金融機関との話し合いは、私の知るところでは初めての試みではないかと思われます。ちなみに、出席の金融機関は、東邦銀行、福島銀行、福島信用金庫、福島県商工信用組合、東北労働金庫福島県本部、日本政策金融公庫仙台支店でありました。

まず、NPO マネジメントラボ代表の山元圭太氏が「地域のNPO×金融機関による真の連携にむけて」という論題で基調講演を行いました。課題点として、「相互の言語の理解不足」、「NPOの経営基盤の弱さ」、「地域課題解決力の不足」の3点が指摘されました。

続いて金融機関からは、福島信用金庫の「ふくしんNPO等地域活性化ローン」、福島県商工信用組合の「ふくしまNPO元気支援ローン」、日本政策金融公庫の「NPO向け融資制度」について、事例の報告が行われました。その他の出席の金融機関からも、取り組みの状況や課題などについての説明が加えられました。

星野からは、以前に有志で「NPOバンク研究会」を立ち上げた経緯があること、その流れが福島信用金庫の取り組みやNPO法人うつくしまNPOネットワークと連携した福島県商工信用組合の金融商品に結びついたこと、とくに後者のNPOバンクの仕組みは、バンク側が直接融資するのではなく信用保証をするもので新規性が認められる、などの補足説明を行いました。このように、NPO側からも様々な提案がなされるようになってきましたし、金融機関からもNPOに支援の手が伸べられるようになってきており、今後この両者の間にコラボレーションが進むことが期待されます。



県内の金融機関の皆さんと有意義な機会を得た

「ふくしま市民活動フェスティバル2015」 進捗状況

ふくしまNPOネットワークセンター

理事 斎藤 健

今年度も県北地域のNPO・市民活動団体の活動を広く市民の皆さまに紹介する「ふくしま市民活動フェスティバル」を行うことになり、昨年11月から、ふくしまNPOネットワークセンターのふくふくプロジェクト内に事務局を設け、準備会を立ち上げました。毎週木曜日に準備会の打ち合わせを行っています。準備会には情報ステーション、ふくサポからの協力を得まして、理事3名を含め7名でスタートしました。

今年度は情報ステーションからふくしま市民活動フェスティバル事務局に加わった野地さんが中心になり、とりまとめを行ってもらっています。毎週の打ち合わせでは出席者の皆さんの自由で活発な発言、アイデアが数多く得られ楽しく行っています。準備会の打合せ回数は1月末までに10回を数えました。

昨年度は大雪に見舞われ、参加者が非常に少なく残念な結果となりましたので、今年の開催日は雪の心配のない5月末日としました。

また、キーワードを「子ども」にしまして、いろんなアイデアを出し合っています。もうひとつ、前回と違っているところは参加団体から参加費（3,000円）を頂くことにしたことです。

1月16日には17団体が参加して、ふくサポで第1回の説明会を行いました。その中で実施要項（案）の説明と実行委員の選出を行う予定でしたが、参加者の中からの提案（意見）もあり、一部修正を行い、再度2月21日に説明会（実行委員会）を行い、実施要綱（案）を承認して頂く予定です。なお、運営委員には7団体から自選、他薦がありました。

費用面では結構厳しいと思われますので、関係各方面のご協力をお願いする次第です。



星野理事長からの挨拶



第1回の説明会

